



2016年2月

三井住友銀行（中国）有限公司 企業調査部

関 龍一

中国の車載向けリチウムイオン二次電池市場の動向

中国では政府が新エネルギー車（以下、新エネ車）市場の発展を推進しており、つれて車載向けリチウムイオン二次電池（以下、LiB）も販売数量が急増しています。このため、これまで現地生産に消極的であった日系のLiBメーカーにとっても、中国は巨大市場として無視出来ない位置付けとなりつつあり、合弁等による現地生産に着手する動きが活発化しています。

中国新エネ車市場の動向

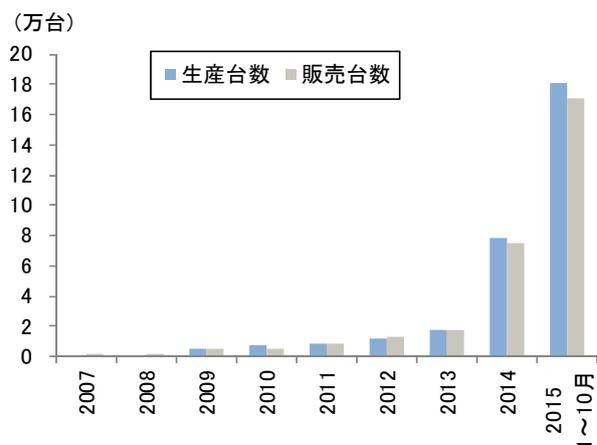
中国政府は、原油輸入依存度の上昇抑制や大気汚染の改善を企図して、2013年後半から電気自動車（EV）、電気走行のみで航続距離が50Km以上となるプラグインハイブリッド車（PHV）、燃料電池車を新エネ車として、普及に向けた政策を加速させています。

具体的には、2020年までに新エネ車販売を累計500万台（2014年まで累計13万台）にするという極めて高い普及目標を掲げ、乗用車向けでは新エネ車購入時のナンバープレートの無償交付・優先割当や補助金支給が実施されているほか、公用車・公共バス等への新エネ車導入も推進されています。

これらの政策効果により、2014年の新エネ車販売台数は前年比3倍強の約7万台に急増し、2015年も10月までの累計で前年（通年）比2倍強の約17万台に達しています。今後、政府が設定した高い目標の達成については、充電インフラの整備なども合わせて進める必要があります。

ますが、外資系完成車メーカーを含めた新エネ車のラインナップ拡充、生産台数の増加が期待されるなか、2020年には世界市場の3~5割を占める規模まで成長する可能性も出てきています。

図表 中国新エネ車生産・販売台数推移



（出所）中国自動車工業協会

中国車載向けLiB市場の現況

新エネ車市場の拡大に伴い、新エネ車に搭載される車載向けLiBも販売数量が急増しています。とくに公共バス等で採用され急増しているEVは、PHV対比環境負荷が小さい一方、搭載されるLiBの容量が大きいこともあり、車載向けLiBの需要は容量ベースでは搭載台数を上回るペースで増加しています。

こうしたなか、中国国内では従来はPCやスマートフォン向けLiBの生産を手掛けていた地場メーカーが車載向けにも参入しており、すでに100社超の車載向けLiBメーカーが乱立しています。こうしたメーカーの多くは、品質や生産技術の

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。



面において課題を抱えているものの、急速に需要が拡大する新エネ車に注力している地場完成車メーカーとの紐帯や、価格低下が進む国産部材(正・負極材、電解液等)の調達、輸入関税や人件費等の面でコスト競争力に優る現地生産等により、高い市場シェアを確保している状況です。

一方、日系等の外資系 LiB メーカーは、規制により 50%超の出資は認められないうえ、合弁先への技術流出の懸念等もあることから、これまで現地生産には消極的でした。このため、歩留り率等を左右する生産ノウハウや、安全性・航続距離等の性能や品質面で強みを有する一方で、限定的なシェアに止まっていますが、外資系の LiB メーカーにとっても、中国は巨大市場として無視出来ない位置付けとなりつつあります。

今後の見通し

車載向け LiB の需要拡大を見込み、足元では地場メーカーによる生産能力拡大の動きが早くも過熱しています。

中国政府は 2015 年 3 月に「自動車用蓄電池業界の規範条件」(生産能力や研究開発要員の最低要件等を規定)を公表し、乱立する地場中小メーカーが生産する低品質・低価格品が大量に流通し、事故発生により国産品の信頼を損なうことがないよう対策を講じていますが、現時点でこの条件を満たさない地場中小メーカーは全体の約 8 割に上り、これらの企業は生産停止こそ強制されないものの、今後

政府の支援対象から外れ、徐々に撤退・淘汰を余儀なくされる可能性があります。

加えて、新エネ車の購入時の補助金は搭載する LiB の航続距離や電力消費量等の製品性能が高いほど多く支給されることから、今後は技術力および価格競争力等による優勝劣敗が進むとみられます。

こうした動きは、技術力に優れた日系をはじめとする外資系の LiB および同材料メーカーにとっては、拡大する中国市場を捕捉するビジネスチャンスにもなり得るものとして期待されています。

日系 LiB メーカーの今後の方向性

このように中国車載向け LiB 市場は、成長ポテンシャルの大きさに加え、技術・性能面に対する要求も厳しくなっていくとみられ、地場メーカーの間では外資系の LiB および同材料メーカーとの協業ニーズが高まっています。実際、一部の日系および韓国メーカーでは地場メーカーとの合弁により現地生産に着手する動きもみられます。

日系 LiB メーカーにとっては、最大市場となる中国でシェアを確保出来なければ、将来的にグローバルでの価格競争力が低下することが懸念されます。このため、今後は競合他社に先んじながらも、有力地場メーカーとの供給過剰に陥らないよう実需や収益性を見極めつつ投資を進め、シェアを確保していくシビアなかじ取りが求められるだけに、日系 LiB メーカー各社の取り組みが注目されます。(関)